Kuradashi

サステナビリティレポート

2024.09.26 株式会社クラダシ

All Rights Reserved.

目次

クラダシが描くサステナビリティ

P.3　トップメッセージ・対談
P.8　ミッション・ビジョン
P.9　ビジネスモデルとインパクト
P.13　サステナビリティ重点取り組みテーマ（マテリアリティ）
P.16　社会・環境インパクト
P.17　B Corp認証

Environment

P.19　フードロス削減・環境への貢献
P.20　環境低減の取り組みとデータ

Social

P.22　人材
P.26　Kuradashi支援先・クラダシ基金
P.30　地方自治体との連携
P.32　ユーザーとの取り組み

Governance

P.35　情報セキュリティ
P.36　コーポレートガバナンス/リスク管理体制
P.37　役員スキルマトリクス
P.38　ステークホルダーとのエンゲージメント

Appendix

P.40　外部評価・表彰
P.41　会社概要

All Rights Reserved.

トップメッセージ

ソーシャルグッドの新たなステージへ
～持続可能な成長に向けたクラダシの歩み～

2023年6月、株式会社クラダシは東京証券取引所グロース市場に上場し、日本のB Corp認証企業として、初のIPOを果たしました。IPOは、私たちが掲げるミッション「ソーシャルグッドカンパニーでありつづける」を更に推進する大きな一歩となりました。また、クラダシの持続的な成長、非連続な成長を目指し、2024年7月より、関藤竜也は、創業社長から代表取締役会長へと役割を移し、河村晃平が新たな代表取締役社長CEOとして企業活動を牽引しています。

私たちの創業の背景には、フードロスという課題とその解決に向けた強い思いがあります。阪神・淡路大震災を経験し、社会のために何かできることを求めた若い日の思いが、ビジネスを通じた社会課題の解決という形で結実しました。2014年にクラダシを創立して以来、社会課題の解決とビジネスの両立を目指し、さまざまな事業を展開してきました。

今なお、気候変動問題や食糧問題を始めとした「食」や「農」を取り巻くサステナビリティ課題は山積しています。こうした状況下で、日本は2030年までに食品ロスを半減する目標を掲げていましたが、これを前倒しで達成したことは非常に励みになります。

クラダシは、今後もお客様やパートナー企業、自治体、NPO、投資家など多くのステークホルダーと連携し、社会性・環境性・経済性に優れた持続可能な経営と成長を追求していきます。本サステナビリティレポートを通じて、私たちの取り組みを発信し、より一層のソーシャルグッドの実現を目指してまいります。



代表取締役社長CEO
河村 晃平

代表取締役会長
関藤 竜也

All Rights Reserved.

事業と社会性の両立を実現～インパクトスタートアップが語る共創のチカラ～

株式会社クラダシ
代表取締役社長CEO
河村 晃平





株式会社ファーメンステーション
代表取締役
酒井 里奈 様

ファーメンステーションは「Fermenting a Renewable Society（発酵で楽しい社会を！）」をパーパスに、未利用資源を再生・循環させる社会の構築を目指すバイオものづくりスタートアップです。独自の未利用バイオマス・微生物データベースと発酵アップサイクル技術を活用し、フードロス／ウェイスト、その他未利用バイオマス由来のバイオ素材を開発・製造しています。

社会課題の解決と事業成長の両立を目指す「インパクトスタートアップ」が注目を集めています。今回、 B Corp認証企業であり、インパクトスタートアップでもある株式会社ファーメンステーションの代表取締役 酒井里奈氏をお招きし、当社の河村晃平と、両社が考える「インパクト」とその実現に向けた取り組みについて対談を行いました。

――まず、お二人が考える「インパクト」についてお聞かせください。

酒井　元々ファーメンステーションは、事業性と社会性の両立を前提に創業しました。ファーメンステーションは、食品工場などから製造過程で排出される食品残さなどの「未利用資源」を独自の発酵技術を用いて「バイオ素材」にアップサイクルしています。世の中にたくさん存在する未利用資源に気づき、もったいない、何とかしたい、と思ったのが創業の背景です。アウトプットは食品原料だったり、化粧品だったり、さまざまなものがあるのですが、そのゴールとして、**再生・循環する社会を創ること**を目指しています。

All Rights Reserved.

トップ対談

河村　クラダシの場合も、「**会社＝事業性と社会性を両立させるもの**」という考えが、根底にあります。そもそも、社会にインパクトを創出できるからこそ、事業が成り立ち、成長していくものだと考えています。それを後から取ってつけたようなものではなく、最初から分かりやすい形にビジネスモデルに組み込んだのが、フードロス削減を目指すECサイトのソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」です。
食品メーカーさまへは「フードロス削減」、ユーザーさまへは「気軽で楽しいお買い物を通じた社会貢献への参画」、さらに社会貢献活動への支援など、多方面にインパクトを創出しています。特筆すべきは、**クラダシの事業規模が大きくなればなるほど、ソーシャルインパクトも拡大していく**点です。

酒井　私たちは「インパクト」のあり方として「**マルチインパクトモデル**」を掲げており、未利用資源からアップサイクルする過程で、単一の課題解決にとどめないこと、さまざまなステークホルダーに対して価値創造できるアプローチを重視しています。たとえば、未利用資源を活用することによって、廃棄物を減らして環境保全に貢献するだけではなく、発酵技術を提供する先の企業さまには新たなビジネスを、また残った副産物も活用し、飼料や肥料として、私たちの製造拠点がある岩手の生産者さんに提供などしています。
八方美人かもしれませんが、生活者、地域コミュニティ、協業先など、さまざまなステークホルダーに対してインパクトを生み出せるように取り組んでいます。

――昨今「人的資本経営」も話題になっていますが、インパクト創出の源泉であり、ドライバーとなる人材や組織については、どのようにお考えですか。

酒井　**会社は人がすべて**だと思っています。ファーメンステーションの全メンバーが、「インパクトとは何か」「なぜそれを追求するのか」を常に考えられる環境づくりに注力しています。通常、事業においては、収益・コストに焦点が当たりますが、それに加えて、環境面での寄与や地域コミュニティとの関わり、その技術によってどんなソーシャルインパクトを生み出せるかなども考えられるようにプロセスに組み込んでいます。

また、事業とは別軸の取り組みとして、「気候変動問題」「ごみ」などのテーマ設定をして、社内で部門横断のチームをつくって、メンバーが主体的に社会課題について学ぶ機会を設けています。また、以前は「ソーシャルインパクトボーナス制度」も設けていて、製造部門はCO2排出量の削減だったり、バックオフィス部門はオフィスのゴミの定量化や備品のプラスチック削減をするなど、身近なインパクト創出への貢献を評価・還元する仕組みも導入しています。

河村　いいですね、ぜひ、一緒に勉強会しましょう！クラダシもミッション・ビジョンを採用時・オンボーディングに始まり、常に意識してもらえるよう取り組んでいます。地方の農家さんのところに大学生の方々が訪れ、収穫支援をしてもらいつつ、食の生産や地域の課題について学んでいただく社会貢献型インターンシップ「**クラダシチャレンジ**」というプログラムを運営しているのですが、そこに社員も参加してもらうなども行っています。多様な経験や観点を得ることで、一人一人の成長にもつながればと思っています。
いろんな考え方や働き方があって良いと思いますが、企業としては、やりがいと働きやすさの両方を提供できる「**プラチナ企業**」を目指したいなと。

All Rights Reserved.

トップ対談

――より大きなインパクト創出のための共創・協働についてもお聞かせください。

酒井　共創は、ファーメンステーションにとって非常に大事です。4つの事業の柱のうちの一つが「共創事業」であるくらい重要です。先日、気候変動に関する社外研修プログラムに参加した際に聞いた、社会課題解決のためには**「Competition（競争）ではなくCollaboration（協働）が重要」**という言葉が印象に残っています。今、地球が抱える課題って大きすぎて、1社では到底解決できないものですし、ファーメンステーションは事業特性上も、パートナー企業と共創する機会は多いですね。
宝酒造さんやニチレイさん、象印さんなど、さまざまな企業さんと協業を行っていく中で、未利用資源の価値や活用について、私たち1社で発信するより、もっと多くの人・関係者が声を挙げてくれることの効果を感じています。そういった企業さんと一緒に新しい市場を創造していきたいですね。

河村　同感です。クラダシだと、特に食品メーカーさまや生活者との連携が重要で、フードロスになりそうな商品を我々のプラットフォームで販売するだけでなく、ブランドソリューション事業を通じて、商品にまつわるストーリーや生産者の想い、企業がサステナブルな社会を実現していくために取り組んでいることをしっかりと伝えていく取り組みも行っています。
単なる廃棄削減にとどまらず、生活者の方に、食の大切さやフードロスという課題について知っていただき、また、生産者への感謝の気持ちを育む機会なども創出しています。

――実は、両社にはインパクトスタートアップや循環社会への貢献、B Corp認証企業というだけでなく、岩手県に拠点があるという共通点もあります。ファーメンステーションは奥州市に自社工場を持っていますが、その背景は。

酒井　私が東京農業大学で研究していた際に、共同研究で奥州市の方がいらっしゃっていたことがきっかけでした。奥州市には豊富な農産物があり、未利用資源活用に積極的な地域コミュニティがありました。未利用資源の活用と地域経済の活性化を同時に実現できる場所として、新しい価値創造の可能性を感じました。

河村　クラダシも一関市にオフィスがあって、酒類販売管理などを行っています。ヘラルボニーさん・雨風太陽さんなど、岩手県に関わるインパクトスタートアップは多いですね。

酒井　ね、岩手、盛り上がってますね！

河村　今日は「インパクト」を切り口にいろんなお話をしてきましたが、社会貢献したいというだけでは持続可能な事業は創っていけないし、資本主義という舞台で、もちろん競合もいて、競争力やステークホルダーとの共創力を発揮して、経済的な価値を向上させていかないといけない。「事業と社会性の両立」は、簡単ではない、大きなテーマです。2社に共通するのは、そんな大きな課題に対して、周囲を巻き込みながら、自律的に取り組んでいるところ、**「難題を楽しむ」バイタリティ**かもしれないですね。「社会にいいこと」がどんどんビジネスとして育つ世界を実現できるよう、ぜひ、一緒に前例を創っていきましょう！

All Rights Reserved.

クラダシが描く
サステナビリティ



All Rights Reserved.

Mission

ソーシャルグッドカンパニーでありつづける

もったいないを価値へ〜凸と凹をマッチングすることで世界を豊かにする。
世の中に山積する社会課題解決を目的に設立したソーシャルグッドカンパニー。
社会性、環境性、経済性に優れた活動をしていきます。

Vision

日本で最もフードロスを削減する会社

国内消費食料の約6割を輸入しているにも関わらず、世界有数のフードロス大国である日本は、「3分の1ルール」などの商慣習のために、その多くを無駄にしているのです。
私たちクラダシは1.5次流通革命を通じて、日本のフードロスを削減します。

All Rights Reserved.

フードロスとは？

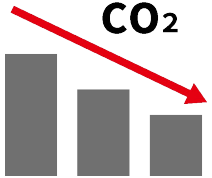
フードロス（食品ロス）とは「まだ食べられるのに捨てられてしまう食品」のことです。国連食糧機関（FAO）によると、食べられるにも関わらず廃棄される食料は世界で約10億トン、1年間に生産された食料の20%に及ぶと言われています。世界自然保護基金（WWF）と英国小売テスコの報告では、それに加えて、農場では約12億トンの食品廃棄があるということが明らかにされています。

約10億トンのフードロス・廃棄によって排出される温室効果ガスは、世界中で排出された温室効果ガス全体の8〜10%にあたり、自動車の温室効果ガス排出量に匹敵する水準となっています。また、限りある農業資源の有効活用が重要視されるなか、世界の農業用水使用の1/4が費やされています。フードロスは、ただ「もったいない」というだけではなく、気候変動への対応や循環経済の実現に向けて、解決すべき世界的なテーマなのです。

フードロス削減の効果



生産性向上と経済成長



温室効果ガス排出削減



資源の有効活用

SDGs 12.3



このような持続可能な社会発展に影響を与える課題として、SDGsのターゲット12.3でも「2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食品廃棄物を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品の損失を減少させる」ことが目標になっています。

日本のフードロス問題

日本もまた、フードロス大国と言われています。年間472万トンもの食品がフードロスとなり廃棄されていると推計されており、それは、国民1人1人が毎日お茶碗1杯分のご飯を捨てているのと同等です。一方、食料自給率が先進国で最も低いなど、アンバランスな状況になっています。クラダシは、そんな日本のフードロス問題にアプローチします。



*出典 UNEP 「Food Waste Index Report 2024
*出典 WWF「Driven to Waste: Global Food Loss on Farms」

All Rights Reserved.

フードロスの削減を目指して、楽しいお買い物で、みんなトクするソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」を運営

Kuradashiは、フードロス削減を目指すショッピングサイトです。
まだ食べられるにも関わらず捨てられてしまう可能性のある商品などをお得な価格で販売し、 売上の一部を環境保護・災害支援などに取り組むさまざまな団体に寄付することで、SDGs17の項目を横断して支援しています。
「もったいない」という想いをきっかけに、いろいろな掘り出し物が見つかる。同じ想いの人たちとつながり、商品をシェアし、楽しむ。楽しくてお得なお買い物が社会の徳に繋がる、そんなソーシャルグッドな瞬間をサポートしていきます。





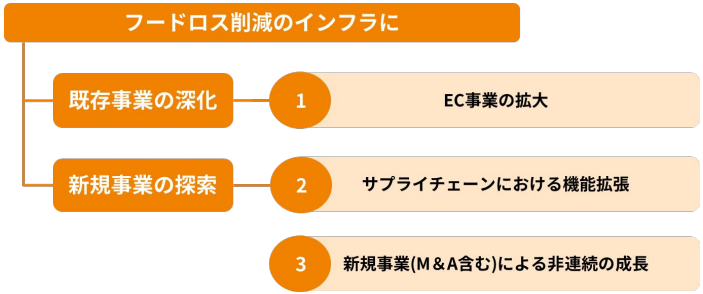


All Rights Reserved.

「フードロス削減のインフラに」をテーマとして
食品サプライチェーンにおけるフードロス削減の機能拡大を加速

中期的な成長戦略として「フードロス削減のインフラに」をテーマに掲げ、ソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」の拡大に加え、企業のサステナブルな取り組みのブランディング支援や食品物流コンサルティングなど、食品サプライチェーンの上流から下流まで広くフードロス削減への貢献力を高めていきます。

また、M&Aを含む新規事業の創出により、事業を複線化させ、企業価値の向上と同時にソーシャルインパクトの拡大を目指してまいります。





All Rights Reserved.

インパクト・価値創造モデル

インプット

人的資本
世の中の課題に挑戦しつづける
プロフェッショナル人財

財務資本

技術インフラ
プラットフォーム・情報

パートナーシップ
会員・パートナー企業
・3PL・NPO・自治体・投資家

事業活動

ソーシャルグッドマーケット
Kuradashi
フードロス商品の仕入れと
マッチング・マーケティング
・販売促進

Kuradashi
Forecast
Base
Stores
Hub
サプライチェーンにおける
機能拡張

アウトプット

フードロス削減
23,993トン*

CO2削減量
63,606t-CO2*

生活者の啓発
会員55万人*

社会貢献団体への寄付

クラダシ基金の活動

アウトカム

Mission
「ソーシャルグッドカンパニーでありつづける」
Vision
「日本で最もフードロスを削減する会社」

経済価値の最大化
x
社会・環境価値の創造

フードロス削減の実績向上
資源の有効活用
フードロスに対する意識の向上
持続可能な消費行動の広まり
パートナー企業との共創
サプライチェーン全体での効率化

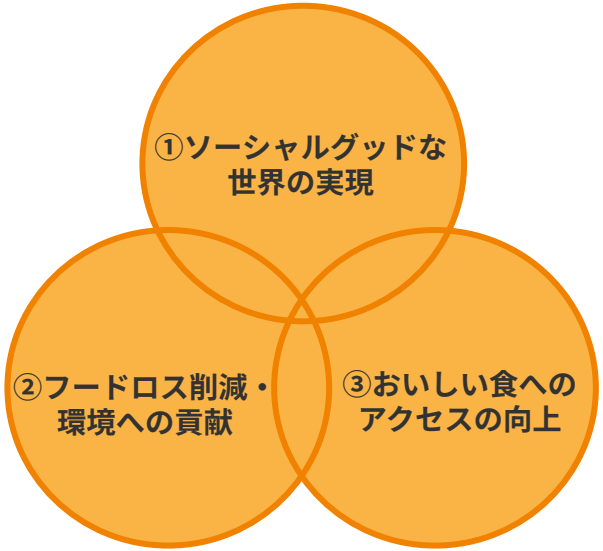
Value 前例を創ろう アクセル全開！ 明るく楽しく元気よく x 5つのマテリアリティ

*2024年6月30日時点

All Rights Reserved.

持続可能な社会の実現と経営を目指し、5つのマテリアリティを特定

事業・企業活動で
取り組むテーマ



ソーシャルグッドカンパニーの
原動力・競争力

④企業と人が共に成長できる場所

ソーシャルグッドカンパニーを
支える基盤

⑤コーポレートガバナンスの強化

All Rights Reserved.

マテリアリティの特定プロセス

Step1 課題項目の洗い出し

SASB、GRIスタンダード、ISO26000、SDGsといった国際的な指標を参照するとともに、ステークホルダーの声を踏まえ、クラダシの企業活動に関連性の高い課題を洗い出し、抽出しました。

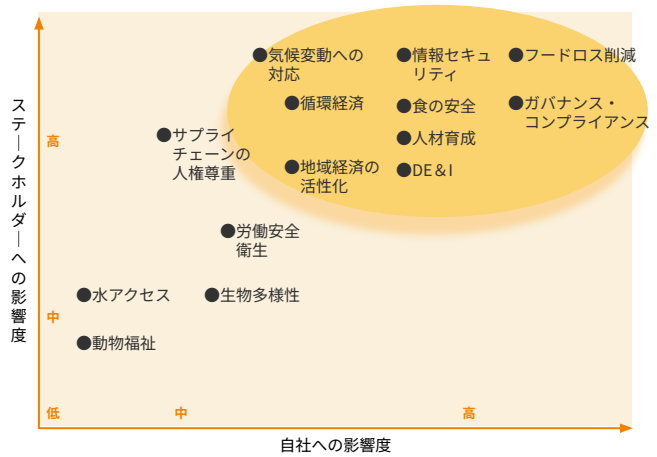
Step2 重要課題の把握・整理

洗い出した課題をもとに、株主・投資家などの外部ステークホルダーとの議論や、従業員へのヒアリングを通じて、クラダシへの期待を整理し、課題の優先順位付けを行いました。

Step3 課題と取り組みの特定と承認

整理・優先順位付けした社会課題について、クラダシらしさ（ミッション・ビジョン）や経営戦略との相関性を評価し、取締役会の決議を経て、優先的に取り組むべきテーマを特定しました。

抽出された課題と整理



All Rights Reserved.

サステナビリティ重点取り組み（マテリアリティ）

テーマ	取り組みの内容・説明	KPI／指標__関連テーマNo.	関連SDGs
①ソーシャルグッドな世界の実現	・Kuradashiを通じた、誰もが気軽に楽しく社会貢献に参加できる仕組みの価値向上 ・経済性の成り立つソーシャルビジネス・モデルの確立 ・社会貢献活動団体への支援による社会インパクトの最大化	・フードロス削減量_①②③ ・クラダシ基金の活動_①③ ・ユーザー数_① ・出品企業数_①③ ・経済効果_① ・支援金額/支援先活動_① ・CO2削減量_② ・CO2排出量/エネルギー使用量_② ・クラダシチャレンジ実績_③ ・フードバンク支援実績_③ ・食のサステナビリティ研究会_③	
②フードロス削減と環境への貢献	・フードロスの削減と温室効果排出の削減効果の最大化 ・事業を通じた環境負荷の低減、気候変動への対応（Scope3の算出）		
③おいしい食へのアクセスの向上	・Kuradashiを通じたフードロスの削減 ・日本の食に携わる一次産業の促進 ・フードバンク/こども食堂への支援		
④企業と人が共に成長できる場所	・社会の変化を捉え、多様な人材が活躍し続けられる環境づくり：DE&I・Well-beingの実現 ・ソーシャルグッドな事業をドライブしていく人材が成長できる環境づくりと、それによってクラダシも成長し、社会と従業員に還元できるサイクルの構築：人材育成・登用	・各役職における女性比率 ・平均勤続年数 ・育休取得率	
⑤コーポレートガバナンスの強化	・情報セキュリティ ・食の安全とサプライヤー管理 ・コンプライアンスの遵守	・リスク管理体制	

All Rights Reserved.

マテリアリティに対する実績（インパクト指標）と取り組み

マテリアリティ	KPI／指標	2024年6月期 実績/施策
❶ ❷ ❸	フードロス削減量 	23,993トン
	CO2削減量 	63,606 t-CO2
	経済効果 	116億円
	ユーザー数（会員数）	55万人
	出品企業数	1,800社
	支援金額	1.4億円
	クラダシ基金の活動	P.27～ 参照

マテリアリティ	KPI／指標	2024年6月期 実績/施策	
❹	各役職における女性比率	全体 59% 管理職 14% 役員 25%	新卒採用開始100人のクラダシ委員会（メンター制度・バリューに紐づくスタンス策定）、各種研修 部活動支援
	平均勤続年数	2.0年	
	育休取得率	100%	
❺	リスク管理体制	**上場に応じたガバナンス強化コーポレートガバナンスコードの対応** 透明性の強化（四半期決算含めた適時開示体制の構築、株主総会、コンプライアンス研修、Kuradashi支援先入れ替え）	

All Rights Reserved.

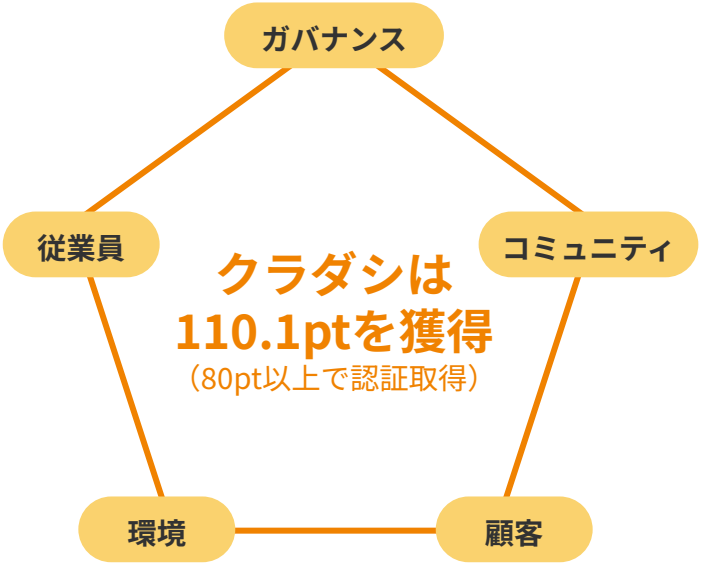
B Corp認証

クラダシは、2022年6月に公益性の高い「良い」企業への認証であるB Corp認証を取得

B Corp認証とは

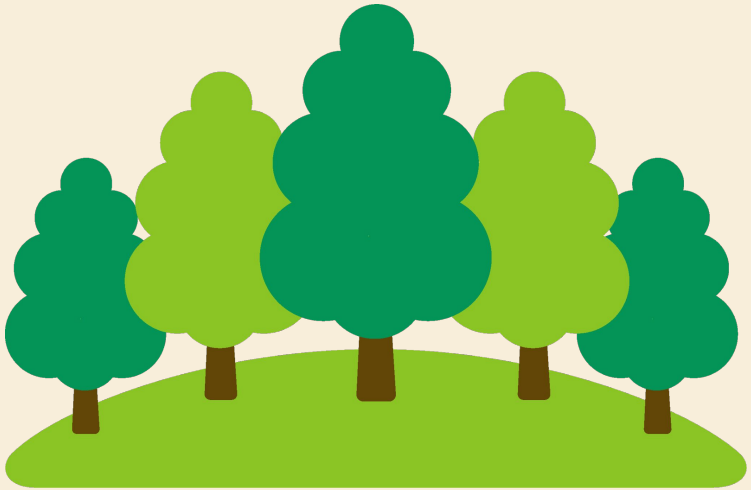
「B Corporation」の略称で、米国ペンシルベニア州に拠点をおく非営利団体B Lab （Bラボ）が運営する、社会や環境に配慮した公益性の高い企業に対する国際的な認証制度です。ガバナンス、従業員、コミュニティ、環境、カスタマーの5つの分野から構成される評価を受けることが認証条件となっています。株主に限らない、すべてのステークホルダーに対する利益へのコミットメントが求められます。

B Corporation：https://www.bcorporation.net/



All Rights Reserved.

Environment
環境



All Rights Reserved.

フードロス削減・環境への貢献

クラダシは、「日本で最もフードロスを削減する会社」をビジョンに掲げ、事業活動を通して、フードロスの削減に取り組んでいます。創立以来、サプライチェーンで発生するフードロスの削減という、地球上の貴重な食資源・梱包資材の有効活用や廃棄物の削減に寄与してきました。フードロスの削減は、食品を生産・製造する過程及び廃棄による温室効果ガスの排出を低減し、気候変動への対応をはじめとした環境課題の解決にも繋がっています。

ソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」というサーキュラー型ビジネスを成長させ、価値を拡大することによって、今後もより一層、地球環境に貢献していくことを目指します。

また、同時に、クラダシの事業は、紙などの資材やエネルギーを消費します。効率的なオペレーションなど、環境に配慮した事業・仕組みをデザインし、クラダシの事業活動によって発生する環境負荷の低減に努めます。

クラダシのサービスによる環境への効果

まだ消費可能であるにも関わらず従来廃棄されていた商品の販売を通じて、フードロス削減とCO2削減に貢献します。

フードロス削減量



23,993トン

CO2削減量



63,606 t-CO2

※2024年6月30日時点 累計

環境効果の算出について

クラダシは、2022年に環境省から委託を受けたみずほリサーチ＆テクノロジーズ株式会社と連携し、「デジタル技術を活用した脱炭素型2Rビジネスの効果実証」を実施。
Kuradashiによるフードロス削減と温室効果ガス排出削減の効果検証を行いました。
その結果に基づいて、四半期毎に削減量数値を算出・更新しています。

All Rights Reserved.

環境負荷の低減

フードロス削減という環境へのポジティブなインパクトを最大化していくだけではなく、事業活動が環境に悪影響を与えることのないようにしなければならないと考えています。自社の事業による環境負荷の低減に向けて、まず、自社の環境負荷を把握するところから始めています。今後は、Scope3算出など、クラダシの事業が関わる温室効果ガス排出の把握にも取り組んでいきます。環境負荷の低減に向けて、省エネルギー・資源の効率的な使用、排出物の削減、リサイクル・リユースなど、環境に配慮した活動を積極的に推進します。
また、環境配慮の前提として、環境に関する法令・規制を遵守し、社会的責任を果たします。

	2022年6月期	2023年6月期	2024年6月期
Scope1 (kg-CO2)	0	0	0
Scope2 (kg-CO2)	24,567	18,750	15,662
Scope1,2 合計	24,567	18,750	15,662
電気使用量(kwh)	54,351	49,866	39,351

オフィスでの取り組み

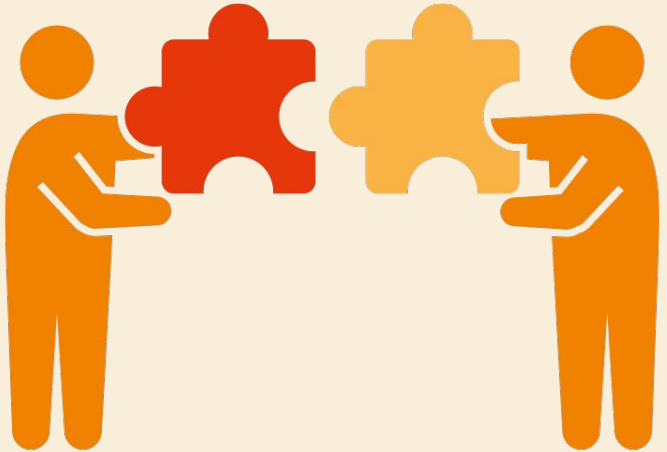
オフィスでも省エネルギーや紙などの資源の有効活用、ゴミの削減に取り組んでいます。空調の管理や使用していない電気・電源はオフにするよう呼びかけ、オフィスルールにも組み込んでいます。紙資源の使用削減や管理のため、契約書などの書類についても、原則電子締結とし、ペーパーレス化を進めています。
その結果、オフィスでの電気使用量が2年間で大きく減少しています。

また、プラスチックゴミ削減のため、メンバーにも、マイボトルの持参を推奨しています。気軽に楽しみながら、環境に配慮したオフィスでの活動ができるよう促進しています。



All Rights Reserved.

Social / 社会



All Rights Reserved.

企業と人が共に成長できる場所

クラダシにとって、従業員は最も大切なステークホルダーの1つであり、ソーシャルグッドな事業を創っていく原動力です。
クラダシで働くことで、成長でき、充実した時間を過ごせるよう、また多様なバックグラウンド・価値観を持つ従業員が活躍し続けられるよう、**人材育成・DE&I促進・Well-beingの実現**に注力していきます。

人事データ (2024年6月30日時点)

従業員数*1	59名
正社員数（%）	49名(83%)
非正社員数（%）	10名(17%)
女性比率（全体）	59%
役員 女性比率	25%
管理職 女性比率	14%
平均勤続年数（正社員）	2.0年
離職率*2	14%

平均年齢	34.6歳
年齢構成（正社員）	20代：11名 30代：27名 40代：10名 50代：1名
年間総労働時間（平均）	2,283時間
有休取得日数（平均）	9日
育児休業取得率（男性）	0/0
育児休業取得率（女性）	100%
育休取得後復職率	100%

*1 取締役、監査役を含まない全従業員数。
*2 2024年6月期(2023年7月1日時点の在籍者の2024年6月末時点での離職率)

All Rights Reserved.

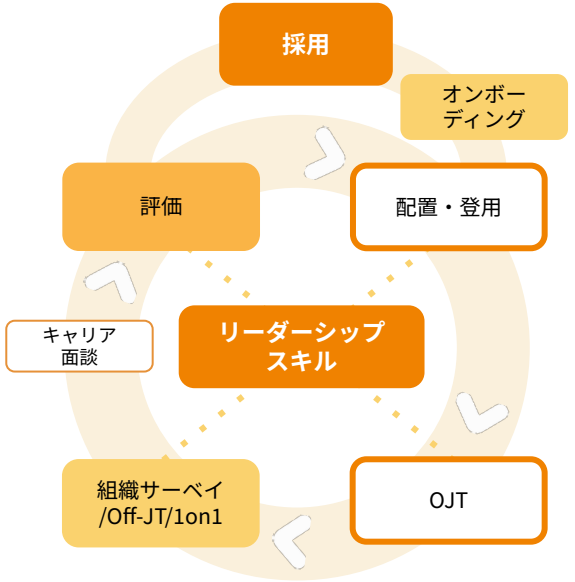
企業と人が共に成長できる場所

多様な人材のチャレンジと成長を引き出す機会の創出

クラダシは、「前例を創ろう」「アクセル全開！」「明るく楽しく元気よく」の3つのバリューを体現し、ミッション・ビジョンを実現していく人材を育成しています。

MVV（ミッション・ビジョン・バリュー）を採用基準や評価・育成制度にも反映させ、共感度の高い人材の採用・育成を進めています。ほとんどのメンバーが中途採用者であり、入社時のオンボーディング研修の実施によるクラダシ事業や各事業部の理解、基礎的なビジネススキル習得を通して、多様なキャリアを活かしながら、即戦力として活躍できる環境を整えています。
また、定期的な1on1や組織サーベイの実施などにより、チームで成果を出すためのコミュニケーション機会を充実させています。

事業成長を加速させていくことで、各自がチャレンジできる機会を提供していきます。同時に、働き方に対する価値観の多様化やライフステージの変化にあわせて、長く柔軟に働くことのできる制度の設計にも取り組んでいます。ベンチャー企業という自社の特性も踏まえ、社会環境の変化や事業・組織の状況に応じて、人事制度をアップデートしています。
マネジメントコース、エンジニアコース、業務限定コースといった人事コースを設け、事業全体への貢献と個人としてのライフスタイルが共存し、ともに成長できる場所を目指しています。



主な施策
パフォーマンスに応じて昇給する評価報酬制度 /
メンバーの目標達成・自己成長を後押しする1on1 / 社外研修制度
Kuradashi Labo（新規事業コンテスト）/ 寺子屋 / 書籍購入支援

All Rights Reserved.

企業と人が共に成長できる場所

MVV（ミッション・ビジョン・バリュー）の浸透

クラダシのミッション・ビジョンを実現していくためのメンバーの行動指針となる3つのバリュー。メンバー1人1人がバリューを理解・共感し、体現していけるよう、カルチャー浸透委員会を組織し、経営陣だけではなく、皆んなを巻き込んだ施策を行っていきます。

前例を創ろう

クラダシは今までにないビジネスを創り、世の中に新しい価値を与える会社。自ら考え、挑戦し続ける私たちでいよう。

アクセル全開！

圧倒的なスピードで、熱狂して働こう。

明るく楽しく元気よく

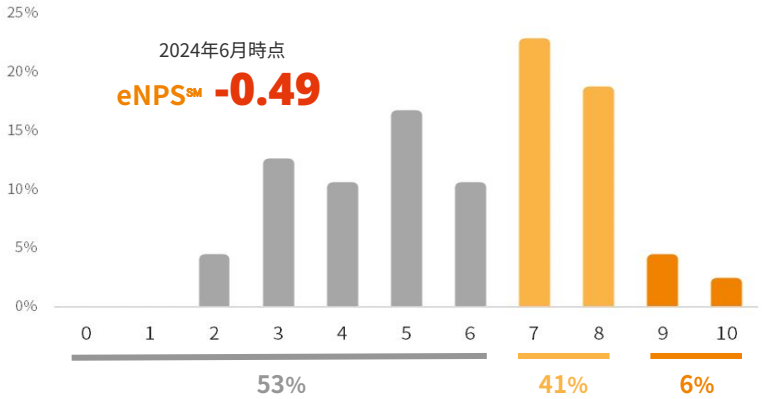
クラダシが目指すのは、楽しくて身近な社会貢献。常に物ごとを前向きに捉え、周りに伝播させよう。

主な施策
バリュー賞 / Slackでのバリュー発揮事例投稿チャンネル（#おめでたいチャンネル）/ Welcomeランチ制度

従業員エンゲージメント

定期的にeNPS℠（Employee Net Promoter Score）調査を行っています。また、その結果を踏まえて、組織開発の課題を分析し、1on1や研修などの施策を実施し、改善に取り組んでいます。

Q. クラダシで働くことを親しい友人や知人にどの程度勧めたいですか？



主な施策
オンボーディング研修内容の更新 / Team Learning / 1on1 / 社員全員参加のMonthly Meeting / メンター制度

*eNPS℠ はベイン・アンド・カンパニー、フレッド・ライクヘルド、NICE Systems, Inc. の役務商標です。

All Rights Reserved.

Workers｜メンバーの声 “クラダシという場所”



吉岡 恵
MD部（バイヤー）

自分の「やってみよう」がより良い社会につながる

ミッションの「ソーシャルグッドカンパニーでありつづける」、そしてミッションを実現するための「社会貢献性と経済性の両立」という考え方に共感して入社しました。
普段は、食品会社とコミュニケーションをとり、自社ECで販売する商品の仕入れを行っています。MDは、賞味期限が迫ったものや時期が過ぎた期間限定品など、まだ食べられるのに販売が難しい食品を最前線で救えるポジションです。EC売り上げの一部が社会貢献活動の支援になる仕組みなので、商品を仕入れた自分もユーザーの皆さまと一緒に寄付している感覚を持って働いています。

組織としては、各々の「やってみよう」を応援してくれる環境だと感じています。年齢や社歴に関係なく意見を出せる雰囲気で、社内には常に複数のプロジェクトが走っているので興味のあることに気軽にチャレンジできます。トライしやすい組織で、自分が挑戦すればするほど「社会にいいこと」に直結していく。クラダシは、自信とやりがいを持って仕事が行える環境です。

手触り感を持って「課題解決」に向き合える環境

クラダシでは、主に産地直送や個配送が可能な事業者様の出品支援や販売促進を行っています。事業者様の企業規模や商材、季節によって発生する課題は多岐にわたり、利用者様のニーズや関心も市況環境に応じて常に変動します。そのため、双方をいかにマッチングさせる商品設計や販促企画を実現できるかが、仕事の醍醐味です。介在価値を提供できたと感じられる瞬間には、大きな喜びを得られます。
また、当社は中途入社のメンバーが多く、事業環境も常に変化しています。その中で各メンバーが主体性を持って事業に取り組んでおり、社会に貢献しながら自身も成長したいと考えている方には、非常におすすめできる職場環境です。



関口 一平
マーケットプレイス部（バイヤー）

All Rights Reserved.

Community｜Kuradashiの支援先

Kuradashiでお買い物する際に、自分が応援したい社会貢献活動団体を選んで、購入金額の一部を寄付することができます。
環境保護や海外支援、動物保護、災害支援など、さまざまな活動を行う支援先があり、**SDGs17のゴール**を横断してカバーしています。
ユーザーが関心のある社会課題の解決に取り組む団体を支援することで、社会貢献の輪が広がります。https://kuradashi.jp/pages/support

支援先団体（2024年7月31日時点）

環境保護

- NACS-J 日本自然保護協会
- 公益社団法人 国土緑化推進機構

飢餓・貧困

- WFP
- Good Neighbors Guatemala

社会福祉

- Paralym Art®
- B&G ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

災害対策

- PBV ピースボート災害支援センター

動物保護

- Lifeboat

医療

- JCV
- 認定NPO法人 レット症候群支援機構

緊急支援

- ピースボート災害支援センター 令和6年 能登半島地震

クラダシ基金

- Kuradashi

All Rights Reserved.

Community｜クラダシ基金

クラダシ基金とは

ソーシャルグッドカンパニーとして、クラダシ自らが社会貢献活動を行うためにつくられた基金です。
地方創生事業・フードバンク支援事業・食のサステナビリティ研究会・教育事業の社会貢献活動に充てられます。





地方創生



フードバンク支援



食のサステナビリティ研究会



SDGs教育

All Rights Reserved.

Community｜クラダシ基金

地方創生「クラダシチャレンジ」



フードロス問題や地方創生に興味関心のある学生が日本全国の地域・農家へインターンとして訪れ、作物の収穫支援や現地での交流を通して一次産業や地域経済の活性化について考える社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」（クラチャレ）を実施。クラチャレを通じて、地域の関係人口の創出・拡大、地域の魅力発信、学生への実体験を通しての学びの場の提供を目指しています。

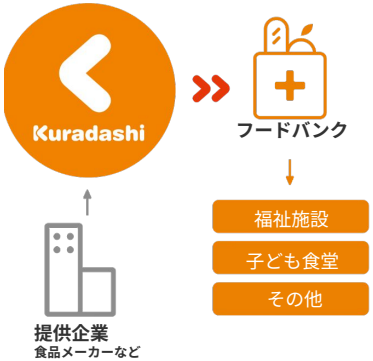
2024年6月期
クラチャレ開催 **13回**

69名 **参加学生数**

収穫産品
パイナップル / メロン / 丹波栗 / オキザワラetc.



フードバンク支援



フードバンクとは、企業などから食品の寄付を受け生活困窮者などに配給する活動およびその活動を行う団体をいいます。

クラダシは、フードバンク支援において生じる「公平性」「安全性」「安定性」の3つの課題を解決することを目指し、食品を必要としているフードバンク団体と寄贈したい事業者のマッチングを行っています。

2024年6月期
寄増企業数(延べ) **4社/拠点**

寄贈先フードバンク数(延べ)
10団体

フードバンク
マッチングシステム
登録団体 **約70団体**



All Rights Reserved.

Community｜クラダシ基金

食のサステナビリティ研究会



気候変動問題や食料サプライチェーンリスクといった「食」や「農」に関わるさまざまなサステナビリティ課題。クラダシは、「食のサステナビリティ研究会」を発足し、フードロス削減を軸に、世界の、日本の人々が、将来にわたって、健康でおいしい 食 にアクセスできるよう、情報の収集や発信、交流機会の提供を通じて、食に関わる企業のサステナビリティ推進や共創に取り組んでいます。

2024年6月期
勉強会開催 **2回**

12社 会員企業及び団体

2023年10月
食のサステナビリティ 共創・協働フォーラム 2023 開催



SDGs教育



社会の持続的な発展に欠かせないSDGs No.4「質の高い教育をみんなに」。将来世代がさまざまな社会課題を解決していくために、ソーシャルアントレプレナーを 増 やしていけるよう、SDGs教 育 事 業 を 行 っています。
大学生・中学生・高校生向けのフードロスについての講座を開催するとともに、2024年はクラダシのマテリアリティに沿ったテーマで大学のゼミや研究室との共同研究を実施します。

2024年6月期
講座実施数

3回

2校 大学との共同研究



All Rights Reserved.

Community｜地方自治体との連携

日本国内のフードロス削減を下支えし、推進する32の地方自治体と連携協定を締結。
2019年に制定された「食品ロス削減推進法」に基づく各自治体の出口戦略を担うとともに、クラダシチャレンジなどを通じ、
関係人口の拡大や地域活性化といったフードロス削減に限らない地域の課題解決を支援しています。

【連携協定締結自治体】

茨城県
新潟県
大阪府
香川県
鹿児島県
東京都大田区
北海道三笠市
群馬県富岡市
千葉県千葉市
神奈川県横浜市
新潟県新潟市
長野県松本市
静岡県静岡市
京都府京丹後市
大阪府茨木市
大阪府豊中市
徳島県徳島市
愛媛県松山市
愛媛県八幡浜市
愛媛県宇和島市
愛媛県伊予市
鹿児島県西之表市
沖縄県石垣市
北海道仁木町
青森県南部町
三重県御浜町
京都府京丹波町
和歌山県すさみ町
香川県小豆島町
愛媛県上島町
高知県北川村
鹿児島県喜界町

(2024年6月30日時点)

【パートナー・認定企業】

埼玉県さいたま市
東京都品川区
愛知県豊田市

【連携協定締結商工会議所】

東京商工会議所
大垣商工会議所



All Rights Reserved.

Community｜地方自治体との連携

連携地域の食材を活用し、魅力を発信

社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」の開催をきっかけに、クラダシが連携するレストランなどで、地域のもったいない食材を活用したメニューが展開されています。
地方の生産者さんの収入向上につながるだけでなく、地域の魅力ある食材を知ってもらう機会にもなっています。

①愛媛県八幡浜市 柑橘「まどんな」
2023年6月にオープンした、千葉県／KISARAZU CONCEPT STOREにあるTHE OPEN CAFEで、愛媛県八幡浜市の柑橘である「まどんな」を使ったスムージーを展開。豊作で余ってしまったものを廃棄せずに、旬の時期に冷凍保存しスムージーとして活用されています。





②和歌山県すさみ町 未利用魚
2023年から株式会社スープストックトーキョーが運営するファミリーレストラン「100本のスプーン」全店舗で年間を通じて、すさみ町の未利用魚であるオキザワラやシイラを活用したメニューが提供されています。

一般の食卓には出回らない未利用魚は、まだ食べられるのに、水揚げされてもサイズが大きく扱いが難しい、市場価値が低いからなどの背景により、味はおいしく食べられるにもかかわらず、漁師の収入につながらないなどの理由で、廃棄されてしまうという現状があります。そんな未利用魚を活用したおいしいメニューの展開によって、漁師の収入向上と海のフードロス削減に取り組んでいます。



All Rights Reserved.

サステナブルをもっと身近に気軽に

消費者・生活者の方にお買い物を楽しんでいただくだけでなく、フードロス・環境問題や、さまざまな企業のサステナブルな取り組みや商品についても知ってもらい、理解向上・行動変容につなげられるようなキャンペーンを行っています。

毎年6月の環境月間には、環境について考え、行動する機会をつくるプロジェクトを行っており、2024年は「おいしい地球をいつまでも。」をテーマに「おいちいプロジェクト」を実施しました。

これからも、気軽に楽しみながら参加でき、サステナブルを身近に感じてもらう企画づくりを行っていきます。



オフライン店舗

2023年に神奈川県／たまプラーザ テラス店、千葉県／KISARAZU CONCEPT STORE店をオープン。ソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」同様、フードロス削減を目指し、さまざまな理由で捨てられる可能性のある商品をお得な価格で1点から販売しています。
また、サステナブルな商品や企業を紹介するコラボレーションブースを設置。楽しくフードロスやSDGsについて、知り、学べるお子さま向けのイベントやフードドライブなども開催し、リアルな場でのお客様とのコミュニケーションを図っています。



All Rights Reserved.

品質管理・カスタマーサポート

食品を販売しているという特性上、また、賞味期限の切迫している商品もあることから、クラダシ倉庫における常温・冷蔵・冷凍の三温度帯での保管・管理や賞味期限・販売期限の管理を徹底しています。

また、カスタマーサポートの体制を整えており、お客様からのサービスや商品へのお問い合わせに対応しています。商品の品質や詳細についてのお問い合わせがあった場合には、仕入元・製造元の食品事業者に確認し、適切な対応を行っています。
お客様からのお問い合わせ・ご指摘について、各関連部署が対応や改善を行っていけるよう、月次で社内にサマリーレポートを共有しています。

ユーザーの声を集め、より良いサービスへ

Kuradashiというサービスやフードロス啓発の輪を広げるために、「アンバサダープログラム」も実施しています。アンバサダーの方には、SNSなどでのKuradashiの活用法についての発信に加え、アンバサダー向けイベントへの参加などを通して、クラダシが行っていることをより深く理解してもらったり、新商品の開発についてのヒアリングを行ったりするなど、ユーザーの代表として、意見を出していただき、それを商品設計やサービスの改良に活かしています。

定期的にユーザー意識調査を実施

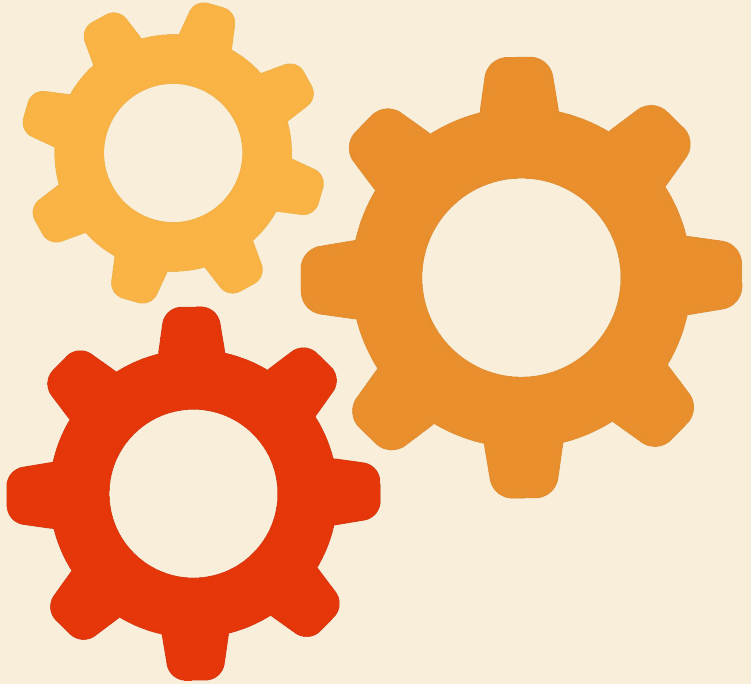
定期的にアンケートによるユーザー意識調査を行っています。顧客満足度やサービスへの期待・ご意見を定点観測し、サービスの改善につなげています。

また、同時にフードロス、サステナブルな商品についての意識や社会・経済の状況を受けて消費行動がどう変化しているかも調査し、結果を公開しています。



All Rights Reserved.

Governance
ガバナンス



All Rights Reserved.

情報セキュリティ

情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）認証

クラダシは、Kuradashiのサービス提供に当たって、お客様の大切な情報をお預かりしており、Kuradashiを安心してご利用いただくために、情報セキュリティ管理体制の強化に取り組んでいます。
2021年7月には、情報セキュリティの国際規格である「ISO/IEC27001:2013」認証を取得しました。より多くの方にフードロス削減、社会貢献活動に参加していただくためにも、今後も情報セキュリティマネジメントシステムの運用・継続的な改善に取り組み、お客様に信頼されるサービスの提供に努めてまいります。

■ISMSについて
ISMS（Information Security Management System）とは、情報セキュリティ管理体制が国際認証規格である「ISO 27001」に即していることを第三者機関により認定する制度です。

IAS ACCREDITED Management Systems Certification Body MSCB-113

G-CERTi SYSTEM SERVICE GIJP-0454-IC ISO/IEC 27001:2013

情報セキュリティ基本方針

株式会社クラダシは、当社に関わる情報を適切に管理し、当社の事業に関わる全ての人々の満足を得ることを目標として、信頼・安心される会社を目指します。

行動指針

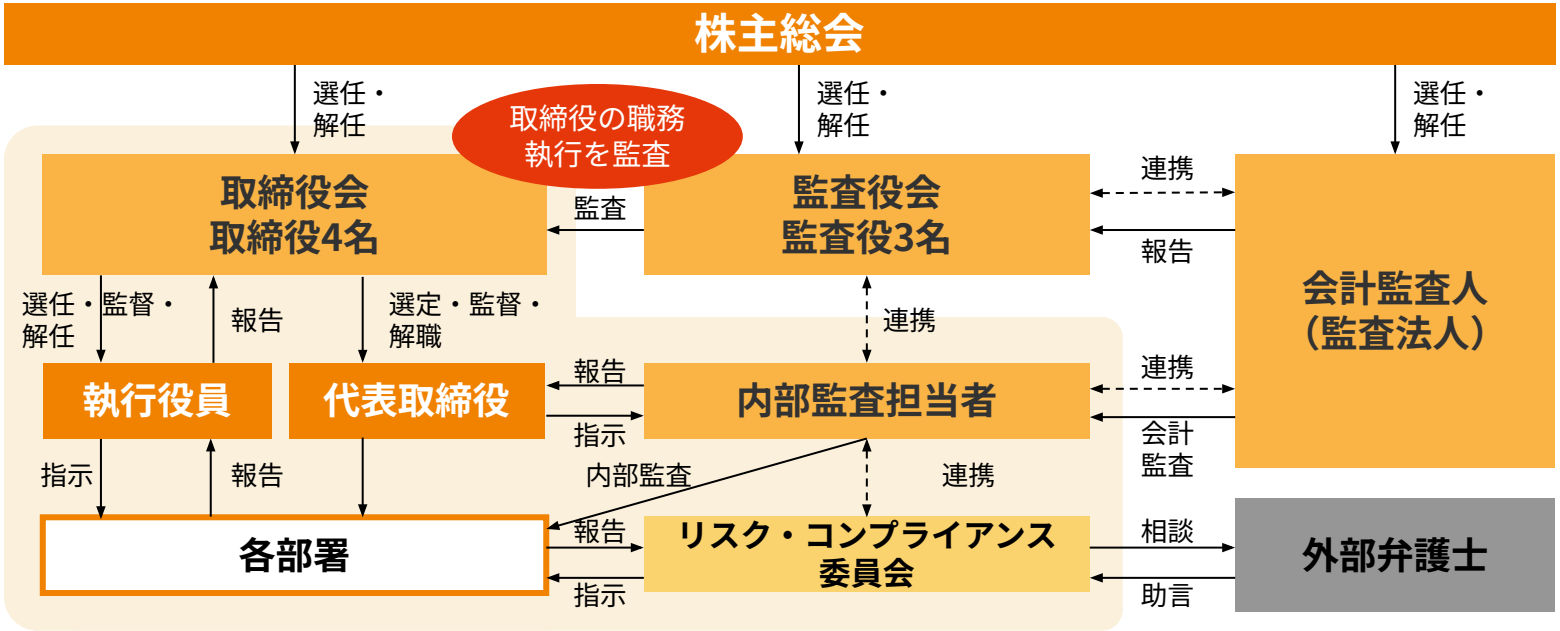
1. 情報資産の機密性、完全性、可用性を確実に保護するために組織的、技術的に適切な対策を講じ、変化する情報技術や新たな脅威に対応します。
2. 全社員に情報セキュリティ教育の実施と方針の周知徹底をはかり、意識の向上・維持に努めます。
3. マネジメントシステム及び、情報セキュリティに関する目的を設定し、定期的にレビューし、継続的に改善を実施し、維持します。
4. マネジメントシステムを実行・維持・改善するために管理責任者に責任と権限を委譲します。

制定日 2021年3月1日
株式会社クラダシ
代表取締役社長CEO 河村 晃平

All Rights Reserved.

コーポレートガバナンス＆リスク管理体制

クラダシは、会社法上の機関設計として、監査役会設置会社を選択しています。事業に精通した社内取締役と客観的な視点を持つ社外取締役で構成する取締役会が経営の基本方針や重要な業務の執行を決定しています。また、監督と執行を分離し、執行役員を中心とする各部署への業務執行権限の委譲を促進しています。
さらに、代表取締役を委員長とするリスク・コンプライアンス委員会を設け、外部弁護士の助言も受けながら、コンプライアンスの遵守及び社内外リスクを管理するためのモニタリングを行い、リスクの早期発見及び防止に努めています。



All Rights Reserved.

役員スキルマトリクス

		経営・サステナビリティ	財務会計	法務・コンプライアンス	人材・組織開発	営業・マーケティング	新規事業・イノベーション	M&A	食品サプライチェーン	出身・資格
取締役	関藤 竜也	●			●	●	●		●	商社
	河村 晃平	●				●	●	●	●	商社・スタートアップ
	髙杉 慧	●	●	●	●			●		公認会計士
	柏木 彩	●	●			●	●			情報・通信
監査役	田上 沙織	●	●	●						公認会計士
	小川 敬介	●	●	●						米国会計士（NY州）
	堀口 拓也	●		●				●		弁護士
執行役員	徳山 耕平	●			●	●	●			スタートアップ
	大沢 亮	●				●	●		●	商社/広告
	築地 雄峰	●				●	●		●	商社/小売
	岡村 薫	●	●	●				●		公認会計士

Kuradashi

All Rights Reserved.

ステークホルダーとのエンゲージメント

クラダシは、ミッション「ソーシャルグッドカンパニーでありつづける」とビジョン「日本で最もフードロスを削減する会社」の実現に向け、また、B Corpとして、すべてのステークホルダーとの誠実なコミュニケーションを重視しています。透明性と信頼性を確保し、双方向のコミュニケーションを通じて、フードロス削減を中心としたさまざまな社会課題の解決という共通の目標に向かってステークホルダーと共に進み、社会にポジティブなインパクトを創出していくことを目指します。

重要ステークホルダー

	エンゲージメント方針	実施内容
お客様	お得なお買い物がフードロス削減や社会貢献につながり、かつ、安心・安全にご利用いただけるサービスを提供し、顧客満足度の向上を追求します。	サイトや各種メディアでの情報発信 カスタマーサポートへのお問い合わせ対応 ユーザー意識調査　など
パートナー企業（取引先）	フードロスの削減やサステナブルな取り組みに貢献し、公平・公正な取引を通じて、社会価値の共創に取り組みます。	定期面談　意識調査・アンケート実施 食のサステナビリティに関する勉強会　など
従業員	「共に成長できる場所」を目指し、多様な人材が活躍し、働きつづけられるよう対話し、組織づくりを行います。	意識調査（eNPS℠）　内部通報窓口 定期的な全社ミーティング　など
株主・投資家	積極的・定期的かつ透明性の高い情報開示を行い、信頼関係を構築し、長期的な企業価値の向上を図ります。	株主総会　決算説明会 投資家向けセミナー　機関投資家MTG　など
省庁・自治体	フードロス削減に向けた取り組みを連携し、法令遵守とともに社会的責任を果たします。	自治体との地域包括連携協定 フードロス削減に向けた協働　など
NPO（支援先）・地域社会	売り上げの一部を活用し、透明性を以て、NPOや地域社会への支援を行います。	寄付　年次スクリーニング 面談　活動発信の協働　など

All Rights Reserved.

Appendix

All Rights Reserved.

外部評価・表彰、加盟団体

主な受賞歴

2018 年	環境省主催「第 6 回グッドライフアワード」環境大臣賞
2020 年	第 3 回「日本サービス大賞」農林水産大臣賞
	令和 2 年度「気候変動アクション環境大臣表彰」
	第 21 回「グリーン購入大賞」農林水産大臣賞
	「食品ロス削減推進大賞」消費者庁長官賞
2021 年	「EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー 2021 ジャパン」関東地区代表選出
	「令和 3 年度消費者志向経営優良事例表彰」消費者庁長官表彰（特別枠）
2022 年	「第 6 回食育活動表彰」消費・安全局長賞
	「令和4年度食品ロス削減推進表彰」環境大臣賞
2023年	2023年度グッドデザイン賞「グッドデザイン金賞」「グッドデザイン・ベスト100」
	CSA賞～20代に薦めたい「次世代型人材」創出企業～
2024年	「令和5年度 消費者志向経営優良事例表彰」特別表彰

主な認証／加盟団体

ISMS（Information Security Management System）
ISO/IEC27001:2013

IAS ACCREDITED Management Systems Certification Body MSCB-113

G-CERTi SYSTEM SERVICE GIJP-0454-IC ISO/IEC 27001:2013

B Corp認証

Certified B Corporation

All Rights Reserved.

会社概要

会社名	株式会社クラダシ
代表取締役	関藤　竜也　・　河村　晃平
創立	2014年7月7日
所在地	本社　東京都品川区上大崎3-2-1 目黒センタービル5階 営業所　岩手県一関市駅前38 番地1 テラス石橋2階
資本金	311,591千円 (2024年9月26日時点)
事業内容	ソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」の企画・制作・運営

All Rights Reserved.